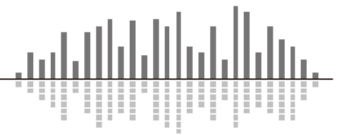


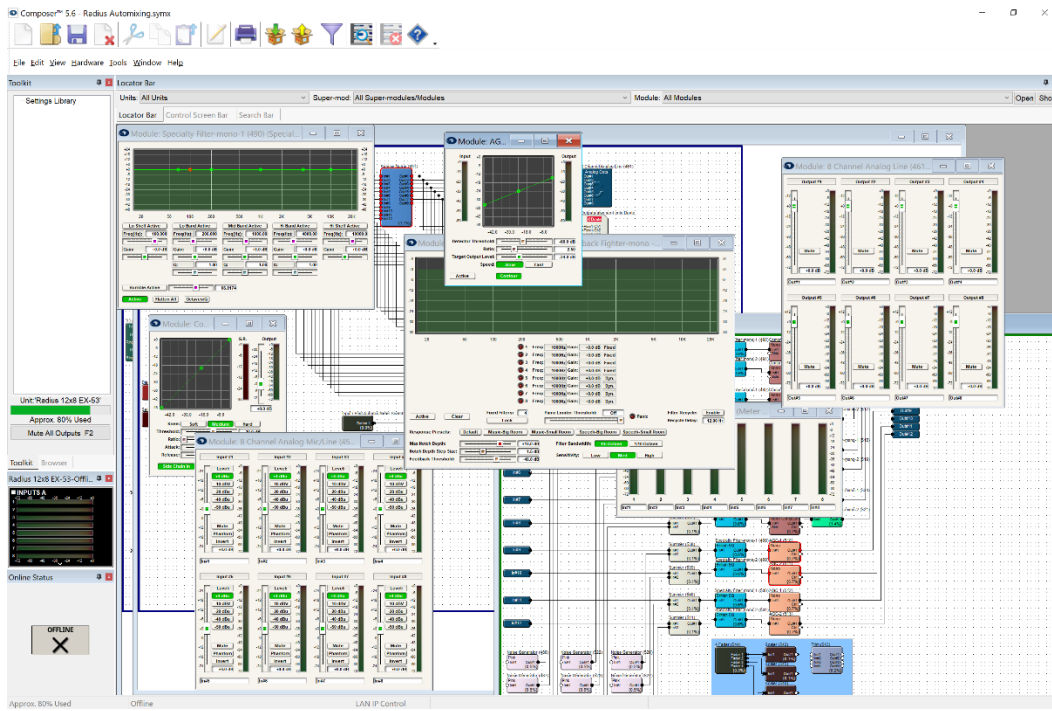
この TechTip では Composer ソフトウェアの知っていると便利な使用方法について説明します。

目次

モジュールのウインドウ表示について	2
Module Views Always on Top 機能	2
Quick Screen 機能	2
DSP リソース使用率について	3
Dual-mono モジュールについて	4
Wire の配線方法	5
・複数を同時に配線する	5
・Smart Select Mode について	5
・Trace Signal Path Forward	5
Selected Wire Audio Module について	6
・WIRE METER	6
・Selected Wire Audio モジュール	6
Re-label All Downstream/Upstream Signals 機能について	7
Re-labeling Propagates to Downstream/Upstream Signals 機能	7
起動時のパラメーターについて	8



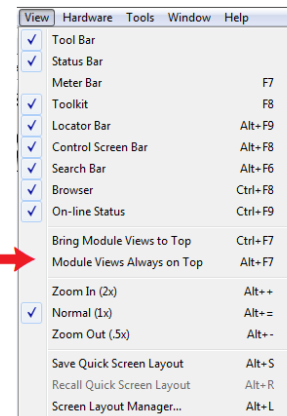
モジュールのウィンドウ表示について



Module Views Always on Top 機能

この機能を使用すると開かれているモジュールは上図の様に常に最前面に表示されるため、複数のモジュールを同時に確認、調整することができます。

この機能をオンにするには右図の様に View メニューから Module Views Always on Top にチェックを入れるか、Alt+F7 を押して切り替えます。



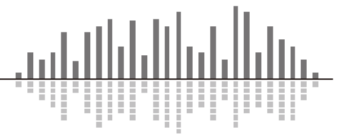
Quick Screen 機能

Composer ソフトウェアには開かれているモジュールとそのモジュールウィンドウ配置を記憶、呼び出す機能があります。

この機能を使用すると上図の様に開かれているモジュールウィンドウを移動したり閉じたりしたとしても瞬時に元のレイアウトを呼び出すことができます。この機能は調整時、メーター監視時などに役立ちます。

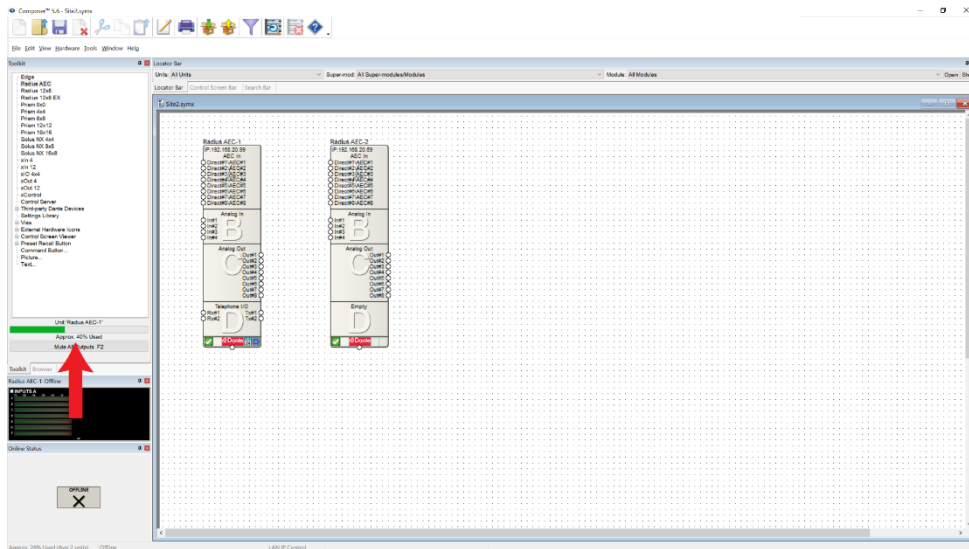
スクリーンレイアウトを保存する場合は View メニューから Save Quick Screen Layout を押すか、Alt+S を押します。保存したスクリーンレイアウトを呼び出す場合は View メニューから Recall Quick Screen Layout を押すか、Alt+L を押します。

Screen Layout Manager を使用すると複数のスクリーンレイアウトを保存、呼び出すこともできます。



DSP リソース使用率について

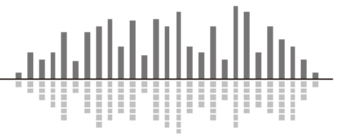
SymetrixDSPミキサーは AnalogDevices 社製の強力な SHARC チップを搭載しています。そのため膨大な数の音響モジュールを演算することができます。Composer ソフトウェア上からはその DSP の使用率を確認することができます。



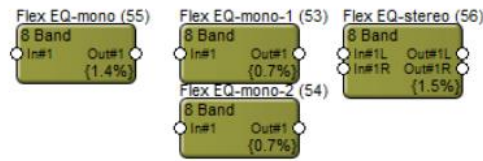
赤い矢印に注目してください。Toolkit 下部に選択されている DSP の名前とその使用率が表示されています。使用率はオフライン状態でも確認することができます。

ただし数字の前に Appox と表示されている時は概算値の表示のため、正確な使用率を確認するには Hardware メニューから CompileDesigns(Alt+F5) を実行します。また Compile はファイルをプッシュする時に自動的に行われます。DSP が複数配置している場合は、最後に選択した 1 台の使用率が表示されます。

使用率が 100%を超えるとファイルをプッシュすることができなくなりますのでご注意ください。



Dual-mono モジュールについて



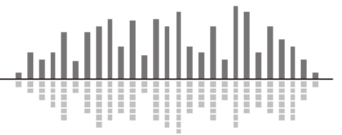
配置されたモジュールの右下にある x.x%が、そのモジュールの DSP 使用率になります。

上記の 8 バンドの EQ モジュールは左側から mono モジュール、Dual-mono モジュール、Stereo モジュールです。

mono モジュールは1つの信号を、Stereo モジュールは2つの信号を処理することができますが、Dual-mono モジュールはグループ化された2つの mono モジュールで構成され2つの信号を2つのパラメーターで処理することができます。

各モジュールの DSP の使用率に注目してください。Dual-mono モジュールは mono モジュールを2つ配置した時に比べて約半分の DSP パワーしか使用しません。これは DSP リソースが不足している設計で役立ちます。ほとんどの場合、複数のオーディオチャンネルには同様の処理を行いますので Dual-mono モジュールを使用すれば DSP パワーをより賢く使用することができます。

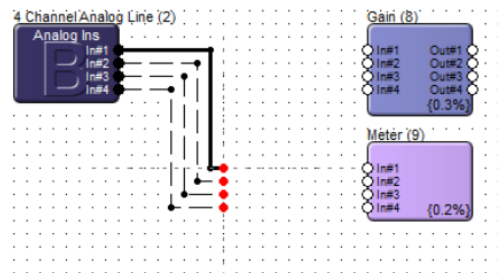
EQ や Dynamics をはじめ FeedbackFighter や Filter など、ほとんどのモジュールに Dual-mono バージョンを用意しています。



Wire の配線方法

・複数を同時に配線する

ワイヤーはキーボードの 0~9 の数字キーを押しながらか線すると複数を同時に配線することができます。1 から 9 はその本数、0 は 10 本になります。また、a のキーを押しながらか線すると、クリックしたポイントから下の全てのポイントを同時に配線することができます。



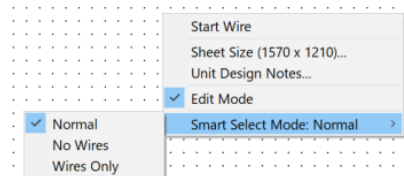
上記の様に複数配線時に直角に曲がっている場合は、r のキーを押すと重なり方を反転することができます。

Tools メニューから No Diagonal Wires にチェックを入れると配線方法はグリッドに沿ってのみに制限されます。この切り替えはキーボードの F10 キーからも可能です。

配線を途中でやめる場合は ESC キーを押します。

・Smart Select Mode について

右クリックメニューから Smart Select Mode と呼ばれるドラッグした時のモードを切り替えることができます。



・Normal

通常モードです。モジュールとワイヤーをドラッグすることができます。

・No Wires

モジュールのみドラッグできます。モジュールを入れ替える時などに使用します。

・Wires Only

ワイヤーのみドラッグできます。レイアウトを変更する時などに使用します。

また、Composer ソフトウェアはドラッグする向きによって選択範囲が異なります。

・右から左にドラッグ

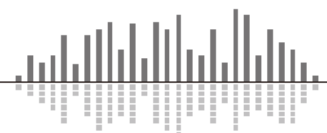
選択領域に完全に囲まれたモジュール、及びワイヤーが選択されます。

・左から右にドラッグ

選択領域と交差しているモジュール、及びワイヤーが選択されます。

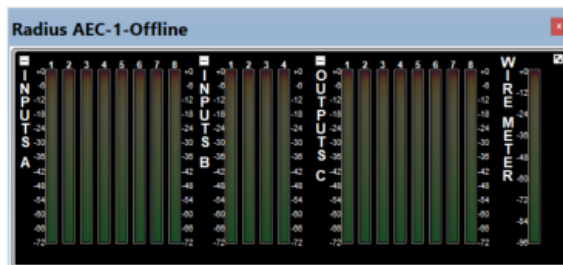
・Trace Signal Path Forward

ワイヤーを右クリックして Trace Signal Path Forward をクリックすると、選択されたワイヤーから接続されている信号の経路をハイライト表示します。これは Dante を使用し信号が複数の DSP にまたがっていても機能します。この機能はルーティングの確認に役立ちます。



Selected Wire Audio Module について

Selected Wire Audio 機能は Composer を使用する全ての DSP にはじめから搭載されています。この機能はソフトウェア上で選択したワイヤーのメーターの表示、音声の出力を行うことができます。システムのテストやノイズのトラブルシュート、音響調整の時に役立ちます。



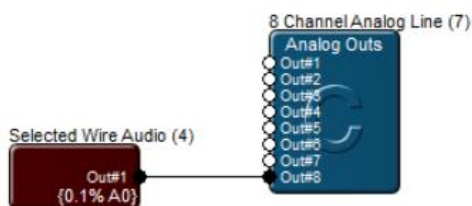
・WIRE METER

メーターウィンドウは通常 Toolkit 下にドッキングされており、ウィンドウ枠をドラッグすると任意の位置に配置することができます。

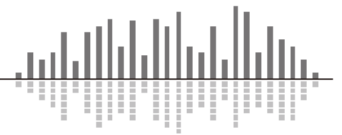
表示されていない場合は View >> Meter Bar にチェックを入れるかキーボードの F7 を押し表示させてください。右上隅の矢印ボタンをクリックするとメーターの方向を切り替えることができ、ラベル上部の+(もしくは-)ボタンを押すとメーターを展開(もしくは折りたたむ)ことができます。

メーターバーにはインプットのメーターとアウトプットのメーターと WIRE METER があります。インプットとアウトプットのメーターはその DSP 本体背面からの入出力のメーターを表します。WIRE METER はオンラインの時に Composer ソフトウェア上で選択した任意のワイヤーのメーターを監視することができます。任意のワイヤーをクリックするだけでそのポイントを素早くチェックすることができます。WIRE METER は他のメーターと違い-96dB まで監視することができるため、ノイズレベルのチェックにも役立ちます。

・Selected Wire Audio モジュール



このモジュールはオンラインの時に Composer ソフトウェア上で選択した任意のワイヤーの音を出力します。余った出力チャンネルや Dante 出力モジュールに接続すれば任意のワイヤーをクリックするだけでそのポイントを素早くモニターすることができます。この機能を使用すればケーブルの差し替えなどを行わずにシステム全体のモニターをすることができます。

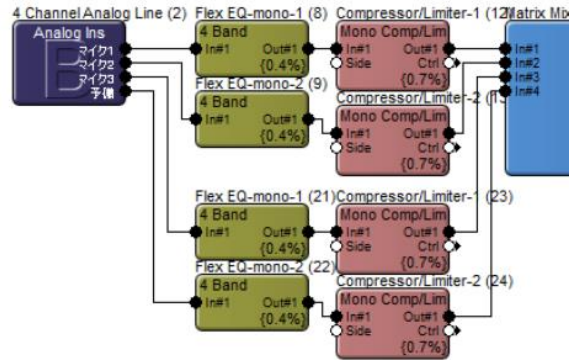


Re-label All Downstream/Upstream Signals 機能について

この機能を使用すると接続されているモジュールの名前を上書きすることができます。

この機能を使用するとモジュールの名前が自動的に設定されるため、チャンネルの識別を助けます。

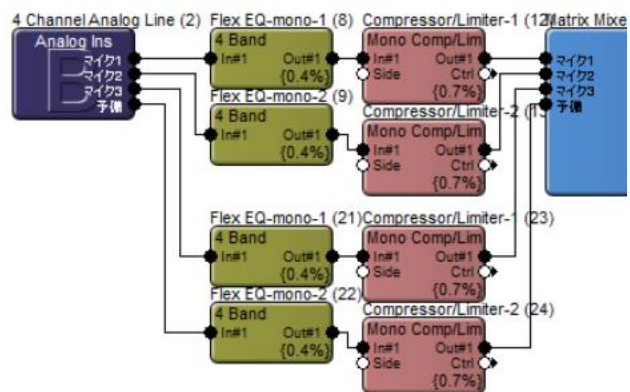
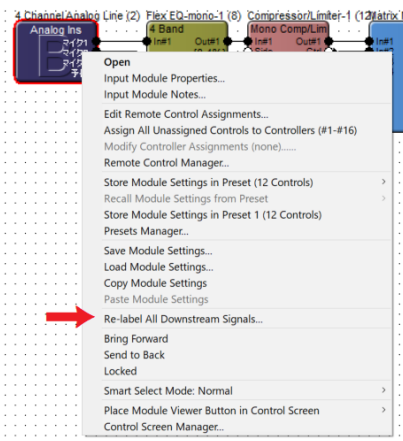
1. インputモジュールの名前を変更します。
ここではマイク#と予備としました。



2. 任意のモジュールを接続します。

3. インputモジュールを右クリックして Re-label All Downstream Signals... をクリックします。

(アウトputモジュールの場合は Re-label All Upstream Signals... をクリックします。)



4. 接続されているマトリクスミキサーの名前がデフォルトの In#x からインputモジュールと同じ名前に変更されました。

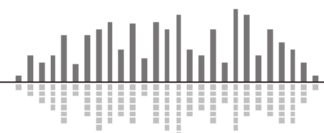
※Mixer や Summer などサミングするモジュール以降の名前は変更されません。

インputモジュールの名前とアウトputモジュールの名前を変更し、配線後に Re-label 機能を使用するだけで途中のモジュールの名前が自動的に上書きされて素早くわかりやすいファイルを作成することができます。

Re-labeling Propagates to Downstream/Upstream Signals 機能

Tools メニューから上記の機能にチェックを入れると、名前が変更された時に自動的に接続されているモジュールの名前も変更します。

この機能を使用すると前記の様に手動で名前を流し込む必要がなくなります。

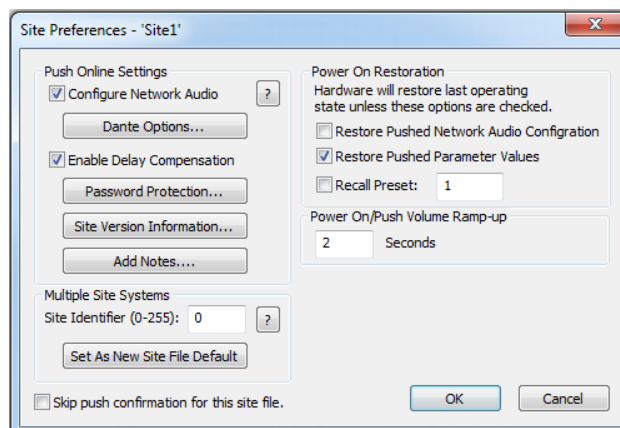


起動時のパラメーターについて

Composer を使用する SymetrixDSP は様々な起動方法から任意の起動方法を選ぶことができます。SymetrixDSP は常電での使用もサポートしていますが、電源の入り切りがある環境では、外部コントローラーや DanteController の使用の有無に合わせて起動方法を選択してください。

起動方法の設定は Tools メニューから Site Preferences ウィンドウを開き設定します。

※Composer6 以降からは Push 時にも表示されます。



•Power On Restoration

•Restore Pushed Network Audio Configuration

・チェックが入っていると電源投入時にサイトファイル内の全てのネットワークオーディオ設定が再プログラムされます。Dante Controller などから変更された情報は、SymetrixDSP の電源再投入時にサイトファイルが持っている設定値に再プログラムされます。

•Restore Pushed Parameter Values

・チェックが入っていると SymetrixDSP は最後に Push されたファイルの状態ですべて起動します。この設定では起動させたい状態のファイルを流し込み使用します。

パラメーターは電源が落ちる度に指定の値に戻ります。

・チェックを外すと電源が落とされた時の状態を記憶し、その状態で起動します。

パラメーターは電源が落ちる前の状態を保持します

•Recall Preset

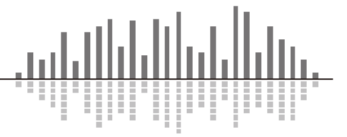
チェックが入っていると電源投入時に指定のプリセットを呼び出します。

•Skip push confirmation for this site file.

チェックが入っていると Push する時に Site Preferences ウィンドウは表示なくなります。

Site Preferences ウィンドウは Tools メニューからいつでも開くことができます。

※この設定はサイトファイルに依存するため、設定を変更した後は必ずファイルをもう一度プッシュしてください。



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。お問合せ受付時間は、土日祝日、弊社休業日を除く 10:00～18:00 です。

株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話:044-888-6761

AUDIO  **BRAINS**

20180308